

以上は釋迦堂の左の方に在り、

△清正公妃の墓

法號正應院祐真日行 即ち肥後守忠廣公の母の墓所は清正堂の傍らに在り寛永三年自ら建設する所なりと、

日芳大姉の墓

紀州大納言頼貞卿の妃、加藤清正公の息女の碑は本坊の東北に在り、即ち寛文六年正月二十四日葬る處碑面には瑤林院淨秀日芳大姉の墓と刻す、

日喜大禪尼の墓

徳川八代將軍吉宗公の御母堂法號深徳院殿妙須日喜大禪尼の墓は又本坊の東北にあり、正徳三年十月廿四日常山に葬る。

日中大姉の墓

伏見親王の姫君にして前紀伊大納言吉宗公の妃、寛徳院玄真日中大姉の墓は寶永七年六月四日當山に葬る、即ち日喜禪尼の墓の傍らに在り、

壽福夫人の墓

加越能太守前田利家公の側室壽福夫人の墓は細川家廟所の東にあり。此他諸名家の墳墓等あれとも畧す、

狩野探幽の墓

老杉蔭暗さところ、苔蒸して滑らかに、碑面に刻まれたる文字の、微かに讀み得らるるもの、是を壽家狩野探幽齋守信の碑と爲す、遺骸は延寶二年十月七日葬り碑は翌三年十月七日の建設に關る、左に碑誌並に銘を録す、

△法印探幽齋狩野守信誌碑並銘

延寶二年十月七日法印探幽齋狩野守信病而没于家壽七十三葬池上本門寺明年也。小祥忌其子探信探幽不辭難立碑其碑而於弘文院學士林更更末成童時知探幽於京師之宅東來之後或遇於營中或會於候伯家晤語頗々既永訣豈不哀惜之哉乃據家爲之作辭曰夫名一稱稱國無敵者不亦難乎探幽齋狩野氏之先出自藤氏南家之支流遠江助爲密其孫維景伊豆國狩野介傳至茂光宗光仕鎌倉幕府救業運船其末裔清白夏州移京都陪足利幕府時左僕射源義政辭職居東山使祐清監臨國事性癖好設色遂得其名制髮銀法位以給爲業祐清子元信益聲譽其子祐齋齋守信子松榮亦叙法眼世傳家業俗稱元信曰古法眼珍嚴其所圖松榮生永德其技元信通銀法卯有二男伯曰光信叔曰孝信乃是探幽齋守信父也守信以授長七年其月其日產於京師母者佐々成政娘也云二歲時孝信戲探幽其泣而止嚴試之每皆然見者異是四歲自執筆持墨其圖始如習熟者云十七年守信如東行到駿府奉拜 東照宮大神君而後禮江府奉拜 合徳公十三歲時詣於海堂花下吟疑爲 永徳迄十五歲詣觀於紅葉山 神廟爾來日光山三輪山東嶽山宮廟有經營則圖龍爲供元和丁巳古德公公御覽隨工所圖守信筆跡殊協 旨爲寶物時十六歲既得群之譽九年 遷於神波城殿屋自比以降江城改道無不盡業明寛永三年丙寅行幸二條城其儲御所高懸命守信齋之監司州氏爲之運置重製殿內不明碑於運軍守信乃徹其架結約集於筆守信乃徹其架結約集

於筆頭運足之間... 東照宮... 聖摩子... 聖命... 化僧... 歲昇... 賜米地... 不限... 丘賦... 山川... 起居... 以銘銘曰... 傳... 超越... 海... 延寶三歲乙卯十月七日

狩野元信の碑

狩野家は代々狩野家の菩提所なれば、名人書家の墓碑あるが中に狩野古法眼元信の碑は永録二年十月六日當山に葬る、

寶物と古文書

寺寶數百種の内重なるものをあげれば左の如し、

- △曼陀羅九幅 高祖日蓮大士御真跡
△揚枝曼陀羅一幅 高祖日蓮大士御真跡
△註法華經四卷 高祖日蓮大士弘安元年...
△法華經一部一卷 高祖日蓮大士御真跡
△法華經三部要文一卷 高祖日蓮大士御真跡
△高祖御念珠一連
△高祖御遺骨一籠
△高祖御灰身一壺

三月三日

御書判

本門寺
妙本寺

△臺德公御書翰元和元年乙卯日詔上人(被下之)

爲見廻遠路預御使僧候並一種貫札令到來祝若ニ存候所勞彌本復候之間可御心安候尙大久保治郎部少輔可申候恐々謹言

六月廿日

秀忠御書判

本門寺
妙本寺

松壽齋十景詩

本寺に於ける十勝の詩あり左に掲ぐ、

△池上松壽齋十景

○山上靈塔

本土封疆法界寬、儼然未散久成壇、法身非滅却、垂滅四處塔中入涅槃、

○海東旭日

破關導生東海陽、識明我祖出神疆、建長資始今猶見、末法萬年不滅光、

○森浦歸帆

森浦渺茫萬里程、風帆幾許逐波行、衆藩通貢太平象、日夜乾坤不惜晴、

○蒲田落雁

遠逐惠風萬里翔、旅情相慰會親明、蒲田併案中牟地、俱入睡鄉夢亦長、

○宿鷺白雪

百千白鷺擁巢來、枝上群居水作態、淡々斜陽相映深、青山一半雲堆々、

○蔓藤紫雲

瓔珞垂天光十分、久成報土聖爲群、迹門惑者詎能識、樹上有時見紫雲、

○函谷楓關

函谷栽楓々々作關、關楓壓錦蜀江間、只嫌訪法僞遊客、將樂一乘清淨閑、

○硯池荷風

寥寥玉筆起香風、取畫曼茶圖樣巧、聚得大千妙機水、將收於是硯池中、

○農家暮煙

五々三々離落迹、分時曳水將公田、麥肥梁熟農談鏡、曬髮老翁誇暮煙、

○漏樓時鐘

樓上聲々十二辰、耳根清淨致門新、因思盧嶽蓮花漏、警策衆人欲拂塵、

その他の詩

その他本寺に關する諸名家の詩を擧ぐれば左の如し、

△池上本門寺吊狩野探幽墓

青萍 末松謙澄
妙技當年稱拔群、如今誰復護遺墳、空林夕日人蹤絕、一朵寒花來吊君、

△吊木下順菴先生墓

企
欲薦蕭繁暗促愁、苔封古碣幾春秋、庭梅不管桑榆變、一任閒人踏月遊、

△遊池上本門寺

傑齋 村岡貞弼
滿目風光秋爽哉、徐々移杖拾詩材、東西旁午人如織、感賽蓮公堂下來、

○贈池上日薩上人歌

全

君不見大藏入萬浩無邊、教觀幽微深於淵、昔之俊彦猶病諸、况今荒學屬葛延、薩公天與識見卓、不拘時流事精研、慧日昭々輝觀床、辯河滔々瀉講筵、聲譽德望難朝晦、一朝拜補教導官、吾生久辱方外交、豈聞盛舉可無言、君不見教則三條國家典、輔政資化依之全、又不見弘經三軌如來訓、護法利物依之圓、吁嗟乎加以公之德與爵、教導得宜攝群緣、名聲隆々豈足期、企望 泉威輝三千大千、

△題 逆祖像天兵破虜有感

碧海 内藤耻叟

浪覆胡元十萬兵、風靡八道朝鮮草、於今安國有精神、立正千秋長莫老、

○遊池上本門寺丙申春晚

眉山 小室重弘

千秋安國論何雄、基業堂々仰祖功、劔折青天飛霹靂、幡翻紫海覆鯨幢、雲霞繡出淨光界、金碧裝成妙法宮、歡喜我來春晚節、諸天咫尺雨花中、

万治二年深草院上元政法師の身延紀行に曰く「やつかれは一日先たうて池上へ行て、こゝろ静かに法文なとたつれて、いたうふけて寶院なるあとに臥し、夜静に心すみてはしはれれば杖をさへへて入世少智音、追師新再尋、今昔池上月、依舊照天心、其朝とく起て遊に御骨家をおがむ、肉つきの御齒この内にあり、此齒のあらんところは我生身當にありと思へとなんのたまへるいとたうとし、

長榮山本門寺の部 (終)

日蓮宗各本山名所圖會(終)

豫 告

不肖さきの日、我國佛教各宗に於ける大本山ともあるべきものが、自己の宗史を等閑に附して、是が完備せる寺史無きを嘆じ、本館主と號りて、『各宗本山名所圖會』の編輯出版を企て、以來、既に二年を経過しぬ、しかも世人は不肖が該學を識せられ、種々の注意を興へられたるが中にも、未見の人常照寺加藤文教師は本書出版の豫告を雑誌太陽紙上に於て一見せられ、遠々丹波の國より、京都本國寺等の寺誌をも併せ掲ぐべしとの懇切なる注意を興へられたり、著者は特に其好意を謝するとともに普く讀者諸君に告げんと欲するは、該書に記されざる他の本宗大本山の事蹟は『續日蓮宗各本山名所圖會』と題し不日出版し、以て本宗寺史の完成を期せんとすること是なり、敢て茲にこれを豫告し置く、

明治三十六年四月九日印刷
明治三十六年四月十二日發行

日蓮宗各本山名所圖會
定價金五拾錢

著作
所有

著者 石倉重繼
發行者 大橋新太郎

印刷者 青木弘
東京市日本橋區本町三丁目八番地

印刷所 青木弘
東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地

發行所 株式會社 秀英舎第一工場
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

發兌元

東京日本橋區本町三丁目

博文館

佛光寺派御門跡題詠 石倉翠葉君著
佛光寺派新門跡題字 山中古洞君畫

佛光寺名所圖會

全洋裝菊判美本
壹正價金二十五錢
冊郵税金六錢

寫眞 銅繪

- 後醍醐天皇繪旨 ●後醍醐天皇宸翰 ●後水尾天皇宸翰
- 後西院天皇宸翰 ●孝明天皇御寄附菊形香爐 ●皇太后
- 大進有範卿眞筆 ●見眞大師自作の有範卿及吉光尼の木
- 像 ●見眞大師眞筆嗣法相承の名號 ●御影堂 ●本外面
- 表玄關 ●東山別院の同唐門 ●東山本廟 ●同側面 ●其
- 他木版數十葉挿入

本書は眞宗佛光寺派の本山たる京都佛光寺の事績を詳細に編述したるものにして一々現況と歴史に参照し極めて精密に考證記述したれば同寺の事蹟を知るは蓋し本書を措きて他に求むべからざるなり

日光名所圖會

公爵近衛篤麿君題詠
從一位久我通通君題詠
伯爵東久世通禧君題詠
輪王寺門跡大僧正彦坂誥照師題詠
文學博士侍講本居豐穎君題詠
文學博士侍講三島毅君題詠

子爵福羽美靜君題詠
竹柏園主佐々木信綱君題詠
桂月大町芳衛君題序文
紅葉尾崎徳太郎君題句
武葉山村信太郎君著

全壹冊洋裝菊判
石版極彩色表紙全文平假名附
紙數五百拾餘頁
正價六拾五錢郵稅拾二錢

日光觀ざれば結構と云ふ勿れとさへいふ彼山紫水明にして殿堂の偉觀壯麗なる日光山の事蹟に
つき明細に記せるもの實に汗牛充棟も當ならず或は日光山志の如き或は兎山拾葉の如き其他何
そその他何としかも時日の變遷は在來の史書を以て到底世人を満足せしむるを得ず著者茲に見
るあり即ち幾多の舊史漫筆と幕府の諸記録に據りこれを現況に照して史的考證を試み且つ文中
一々精巧美麗なる寫眞銅版木版二百餘種を挿入して通俗に記述せるものは是を本書となす苟も日
光一山の事蹟と沿革を詳細に知らんと欲するものは宜しく本書を繙くべきなり蓋し日光を記せ
る幾多の出版書中未だ嘗て見ざるの珍書なるべし

寫眞 銅版

- 今市杉林 ●假橋并神橋 ●双輪塔 ●東照宮表門 ●飛越獅子 ●神庫燈籠 ●虫喰鐘
- 公二王門 ●夜叉門 ●唐門 ●拜殿 ●同鳳凰の間 ●鷹の間 ●眠り猫 ●二ツ堂 ●三代
- 彌の瀧 ●華嚴の瀧 ●東遊 ●稻荷川 ●霧降の瀧 ●赤難 ●女寶 ●其他重寶物等數十種
- 寺湖 ●戰場ヶ原 ●湯本 ●稻荷川 ●霧降の瀧 ●赤難 ●女寶 ●其他重寶物等數十種

侯爵黒田長成君題字 其他諸大家序
子爵長岡護美君題詩 大橋乙羽君著
男爵末松謙澄君序文 (第十五版)

増補 千山萬水

全一冊 洋裝金字入
紙數七百頁

幾内東海東山道 風景寫真百二拾挿入
及中國四國九州 正價金五拾錢 郵稅拾錢

本書は辱なくも九重の御覽を賜ふの榮を得、
發售以來忽ち拾數版を重ねるの運に會したれ
ば、更に大増訂を企て四國九州中國一帶の案
内記六十四頁に其他の風景寫真三十二ヶ所と
を加へ、且つ旅人智慧の板てふ新遊戯をも挿
みて初版以來紙數百五十餘頁を増加し、一冊
釘裝を美にしたれば、之れに優れる旅行案内
はあらざるべし。

侯爵伊藤博文君題字 櫻庭箕村君序文
伯爵土方久元君題詩 大橋乙羽君著

續 千山萬水

全一冊 洋裝金字入
美本紙數六百六拾頁

寫真銅版 色刷風景百二十入
第六版 正價金五拾錢 郵稅拾錢

東洋古來第一の美本として内外の喝采を博し
たる千山萬水は、其紀する所の地、東北に止
まりしを、烟霞の癖は更に著者をして、東海幾
内中國西海より薩諸州を跋渉せしめぬ、是に
於てか此の續編あり、之を初編に比するに、
經る所廣きに從つて寫真に上れる絶景又頗る
多し。裝幀の美麗亦優るとも劣ることなし

日本鐵道株式會社編纂銅版

日本鐵道全線路詳密圖 東京市街圖 仙
臺市水戸市高崎市宇都宮市盛岡市青森市
最近地圖入

日本鐵道線路案内記

繪口

日本鐵道株式會社 ● 上野停車場 ● 秋葉原貨物取扱所構内 ● 上野公園 ● 淺草觀音 ● 招
魂社遊就館 ● 兩國橋 ● 九段大塚 ● 伊香保温泉市街 ● 伊香保金太夫ホテル ● 高津戸 ● 招
魂社遊就館 ● 足利鐵阿寺 ● 小山思川景 ● 其他關東々々北名勝舊蹟寫真銅版

一區線 ● 自上野至高崎
二區線 ● 自大宮至白河
三區線 ● 自白河至仙臺
四區線 ● 自仙臺至盛岡
五區線 ● 自盛岡至青森

山手線 ● 自品川至赤羽
海岸線 ● 自田端至岩沼
日光線 ● 自友部至小山
兩毛線 ● 自小山

向本會は前掲の外前村に本社各課所在地及び、諸般の統計旅客の注意入場切符の發賣、定期乘車券、同乗車券、學生の
乘車券、金割引、多人數乘車券、列車給付、旅客列車の別立、客車貨物、手荷物、小荷物、其他の貨物、人貨物運賃及
手數料、日本鐵道貨物取扱人名簿等あらゆる旅行に必要な事項は、旅客も知らさず明細に列記して、遠慮なく、實に從來訪問
にありふれたるものと大に異なるを異にせり、故に旅途に上る人は常に旅中本冊を收めたりんば、旅情の慰藉となるの
みならず、精細に地理人情諸事をも悉するものと爲す。

發兌元 東京本町 博文館

松濤軒齋藤長秋編輯 雪旦長谷川法橋書

江戸名所圖會

全部貳拾册上下貳帙入
和裝木版美濃判刷
正價金五圓小包送壹貫目

本書は天保年間の名なる好者作にて江戸徳川幕府隆盛時代の實況を精寫細述したるものにして神代梵刹名勝遺蹟の由来及傳説各諸侯の第宅沿革より其當時の風俗人情商家櫛比般賑の街に至るまで荷も日本大江戸の外観内容は精緻を極めし幾百の畫譜と相待つて遺憾なく描寫せり本館此原版を獲て世に公にするを得たるは洵に満足する所なり大方の士請ふ一本を購ふて珍藏せられんとを

- 自第一册至第三册
日本橋本町通、神田小川町、飯田町、兩國、靈岸島、八丁堀、築地、鐵砲洲、芝口、愛宕下、西久保、赤羽根、三田、魚籃、白銀、芝浦
- 自第四册至第六册
品川驛、大井、鈴ヶ森、池上、矢口、大森、蒲田、八幡、六郷、川崎、鶴見、生麥、神奈川、本牧、程ヶ谷、杉田、金澤
- 自第七册至第十册
外櫻田、霞ヶ關、永田馬場、平川、溜池、麻布、廣尾、青山、目黒、碑文谷、北澤、世田ヶ谷、澁谷、四谷、千駄ヶ谷、代々木、高井戸、武藏野、府中、玉川、向ヶ岡
- 自第十一册至第十三册
市谷、牛込、小石川、大窪、柏木、成子、堀之内、中野、小金井、錦土、高田、大塚、雑司が谷、巢鴨、板橋、練馬、大宮、野火止
- 自第十四册至第十五册
湯島、上野、日暮、根津、谷中、三崎、駒込、王子、川口、豊島川
- 自第十六册至第十七册
淺草、下谷、根岸、山谷、橋場、千住、西新井
- 自第十八册至第二十册
深川、本所、龜戸、押上、柳島、隅田川、木下川、松戸、行徳、國府臺、八幡、船橋

徳川十五代史

全十二册洋装綴 正價一册廿五錢
大判二九五二頁 郵税一册六錢

本書は江戸幕府の制度法令に精通せる内藤趾叟先生の著にして徳川氏二百七十年間の大事要目及び法令は勿論時の幕時との交渉を始めとし漸次各藩の動靜を説述し當時人心に影響せし事件は細大漏さず之を網羅し時の城下に對する市區其他の政略を詳記したれば今日東京に至る迄の變遷事情を知悉する事を得一面完全なる風俗史也歴史研究家の絶好資料たるは勿論之を一讀せば徳川氏の政略が如何に今代の制度文物に波及せしかを察し今昔を比較對照せば其興蓋し多かるべし

日本名勝地誌

壹册各五百頁
▲壹册參拾錢全部參圓三拾錢 郵税壹册八錢

- (次目結完册二十部全)
- 第一編 ◎畿内之部
 - 第二編 ◎東海道之部(上)
 - 第三編 ◎東海道之部(下)
 - 第四編 ◎東山道之部(上)
 - 第五編 ◎東山道之部(下)
 - 第六編 ◎山陽道之部
 - 第七編 ◎北陸、山陰道之部
 - 第八編 ◎南海道之部
 - 第九編 ◎北海道之部
 - 第十編 ◎琉球之部
 - 第十一編 ◎臺灣之部
 - 第十二編 ◎臺之部

38
16

博文館編輯局校訂 帝國文庫 第四十四編

佛教 高僧實傳

全壹册洋裝脊皮金文字入
中判美本紙數千〇五拾頁
▲正價金六拾錢
▲郵稅拾六錢

目次

- 傳教大師行狀記
- 弘法大師行狀記
- 道元禪師行狀記
- 日蓮上人一代記
- 親鸞上人一代記
- 慈眼大師傳
- 元山大師傳
- 祐天上人一代記
- 龍樹菩薩傳
- 天親大師傳
- 曇鸞大師傳
- 道綽大師傳
- 善導大師傳
- 惠心僧都傳
- 法然上人傳
- 聖德太子傳

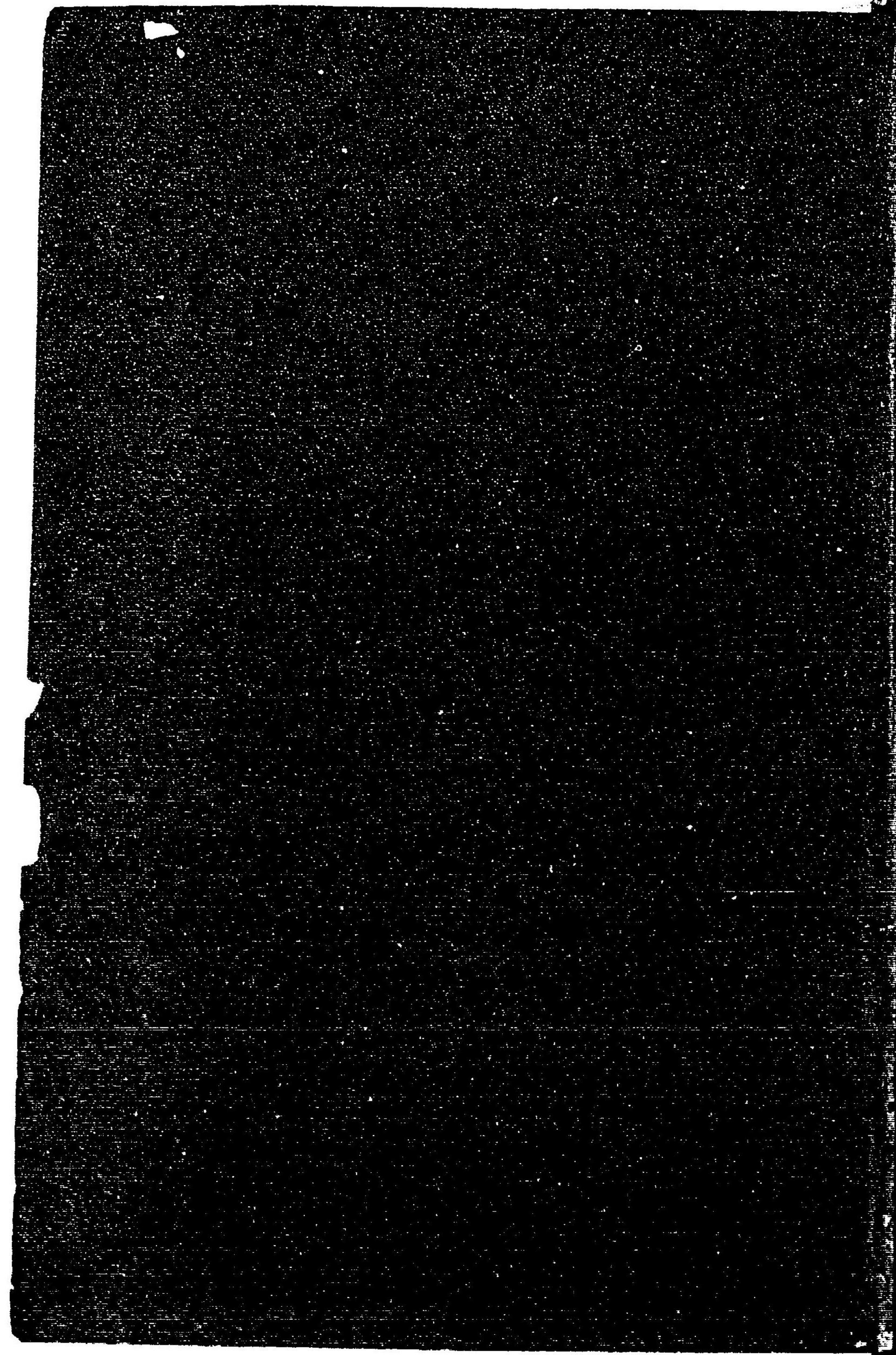
江見水蔭君校訂 續帝國文庫 第四十九編

佛教 續高僧實傳

全壹册洋裝脊皮金文字入
中判美本紙數約壹千頁
▲正價金六拾錢
▲郵稅拾六錢

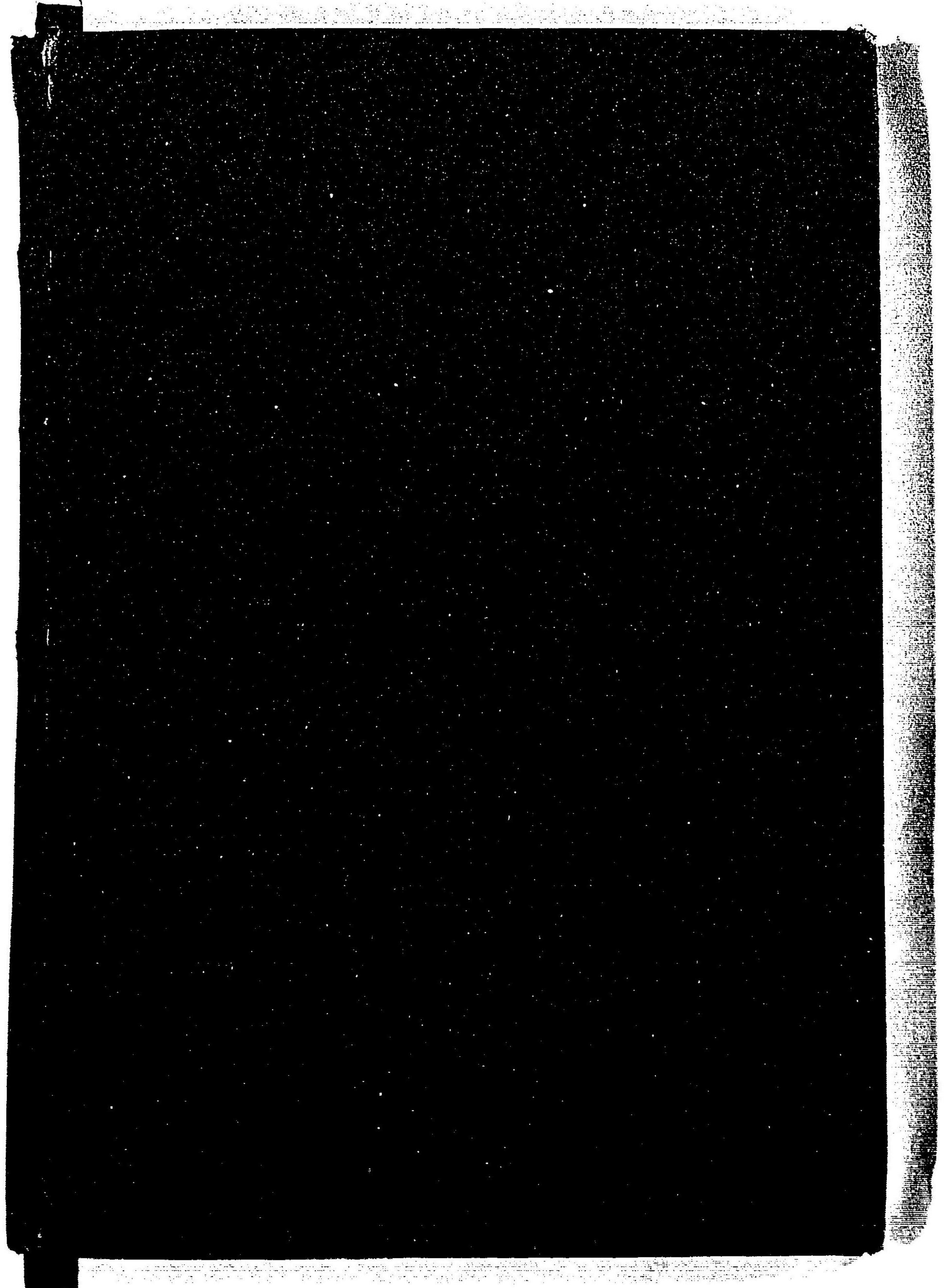
目次

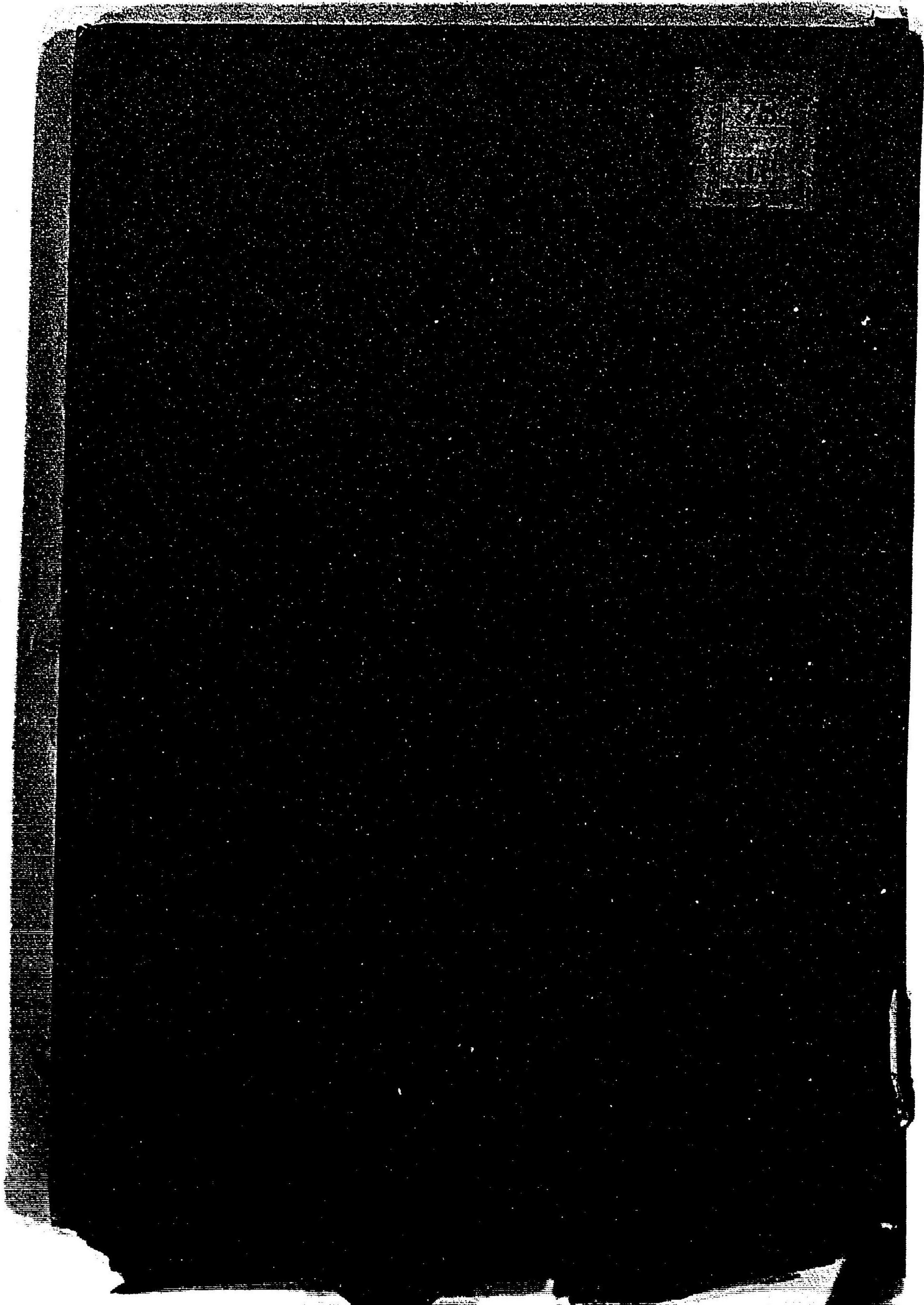
- 慈覺大師一代畧記
- 興教大師實傳
- 圓明國師御傳
- 逆如上人御傳記
- 西行物語
- 荊萱道心行狀記
- 智證大師一代畧記
- 記主禪師行狀繪詞傳
- 深草元政上人御傳記
- 明惠上人御傳記
- 契沖阿闍梨傳
- 一休諸國物語圖會
- 役行者御傳記圖會



78

16





020017-000-9

78-16

日蓮宗各本山名所図会

石倉 重継/著

M36.4

ABH-0183



